

ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

	2008年	2009年	2010年	
①人口:2,854万人(2011年4月1日)	④実質 GDP 成長率(%)	9.0	8.1	8.5
②面積:44万8,900k㎡	⑤貿易収支(米ドル)	30億8,050万	24億8,430万	27億6,890万
③1人当たりGDP:1,380米ドル (2010年)	⑥経常収支(米ドル)	35億6,170万	21億9,820万	22億9,740万
	⑦外貨準備高(金を含む,米ドル)	90億7,220万	111億5,270万	n.a.
	⑧対外債務残高(米ドル)	37億4,760万	39億9,630万	n.a.
	⑨為替レート(1米ドルにつき, スム,期中平均,公定レート)	1,319.58	1,465.63	1,586.23

[出所] ①②④:国家統計委員会, ③:IMF, ⑤~⑧:欧州復興開発銀行(EBRD), ⑨:ウズベキスタン中央銀行

■外需の復調と国内生産増加で4年連続8%超の成長

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2010年の実質GDP成長率は8.5%を記録した。2007年の9.5%成長以来、4年連続で8%超の高い伸びを続けている。

2010年の成長は、世界経済の復調と資源価格の高騰に伴い輸出が好調であったこと、鉱工業生産が前年比8.3%増、農業が6.8%増、建設8.1%増と生産面で各分野が堅調に増加したことに起因した。

鉱工業部門では、燃料に次いで大きなシェアを占める機械・金属加工が前年比11.6%増だった。GMウズベキスタンによる乗用車生産はロシア向け輸出が回復したことを受けて6.2%増の21万7,733台となった。2011年冬以降にエンジンの国内生産を始める予定のため、販売価格がもう一段下がれば、ロシアやカザフスタンなどCIS市場向けの輸出増加が期待できる。これにより国内での生産活動はさらに活性化するものと思われる。

軽工業部門においても、綿製品関連での貿易取引が大幅に拡大したことを受けて繊維分野が活発であった。綿糸の生産量は18万5,800トン(19.6%増)、綿繊維は112万5,400トン(7.5%増)で、原綿も前年とほぼ同量の342万2,200トン(1.4%増)であった。さらに政府が2010年末に策定した2011~15年の5カ年産業発展プログラムにおいて、最重要製品として位置付けられたニットの織物や靴下は70%超の大幅増産となった。

2010年の消費者物価上昇率(12月比)は、公式統計によれば、ほぼ前年並みの7.3%だった。他方、IMFは年平均で9.4%、アジア開発銀行(ADB)は10.6%、欧州復興開発銀行(EBRD)は12.5%と推定している。

政府は2011年通年のGDP成長率を8.3%と見通す。カリモフ大統領は2011年を「中小企業の年」と位置付け、法人税減税や中長期の資金貸し付けを簡素化し、中小企業の経済活動を活性化させることで高成長を維持する狙いである。国際機関ではADBとEBRDが8.5%、IMFも7.0%と予測しており高成長は継続するとみられている。

■貿易黒字は過去最大に

2010年の貿易(サービスを含む)は、輸出が前年比10.8%増の130億4,450万ドル、輸入は6.8%減の87億9,970万ドルで、貿易収支は過去最大の42億4,480万ドルの黒字となった。

輸出を品目別にみると、国際商品市況の高騰や世界経済の復調を受けて食料品が前年比77.3%増、綿繊維46.0%増、機械・設備2.1倍と、多岐にわたる分野で大幅な伸びがみられた。他方、エネルギー製品が輸出全体に占める割合が前年の34.2%から24.8%に縮小した。これは天然ガス輸出に従事していたスイス資本のゼロマックスが撤退した影響と思われる。国別では、最大のロシアが96.8%増の44億4,120万ドルと著しく伸びた。ロシア側の統計をみると、最大の輸出品目である自動車は世界的な景気の悪化から前年は大きく落ち込んだものの、2010年はリーマン・ショックの影響を受ける前の2008年の輸出台数に匹敵する7万2,274台に回復した。このほか、2010年夏の猛暑によるロシア国内での不作による影響もあり、果物や野菜も大きな伸びを記録した。中国も84.0%増の8億9,990万ドルと急拡大した。中国側の統計によると、原綿および綿糸(4.2倍)ならびにウラン(6.4倍)の伸びが大きく、この2品目で全体の95%を占めた。2010年は綿花の主要生産国である中国やパキスタンが干ばつや洪水など異常気象に見舞われ綿生産が低下、それに伴い国際価格が高騰したこともあって大幅な輸出額増へとつながったとみられる。他方、2007年以降、急速に貿易を拡大させていたスイスは、2010年5月の同国資本の企業の撤退とともに97.2%減となり2005年の水準に戻った。

輸入を品目別でみると、機械・設備分野を除くすべての分野で増加となっているものの、全体の半分程度を占める機械・設備が前年比27.3%減となった。国別で見ると、中国が激減した。鉄鋼管、掘削用機械ならびに破碎機、ブルドーザー類における落ち込みが大きく、これらの品目だけで輸入総額の減少分の7割を占めた。その背景として、トルクメニスタンから中国への天然ガスパイプライン事

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入

(単位:100 万ドル, %)

輸出				
	2009 年		2010 年	
	金額	金額	構成比	伸び率
ロシア	2,257.2	4,441.2	34.0	96.8
中国	489.0	899.9	6.9	84.0
カザフスタン	513.7	852.1	6.5	65.9
トルコ	406.9	721.9	5.5	77.4
アフガニスタン	703.8	663.3	5.1	△ 5.8
イラン	538.0	573.9	4.4	6.7
ウクライナ	691.1	175.7	1.3	△ 74.6
韓国	102.6	158.2	1.2	54.2
シンガポール	67.5	155.8	1.2	130.8
英国	110.8	131.5	1.0	18.7
日本	15.0	16.5	0.1	10.0
輸出総額	11,771.3	13,044.5	100.0	10.8
輸入				
	2009 年		2010 年	
	金額	金額	構成比	伸び率
ロシア	2,190.7	1,936.4	22.0	△ 11.6
韓国	1,125.8	1,456.5	16.6	29.4
中国	1,562.4	1,185.4	13.5	△ 24.1
カザフスタン	793.5	956.2	10.9	20.5
ドイツ	417.0	432.8	4.9	3.8
ウクライナ	834.9	376.9	4.3	△ 54.9
トルコ	267.1	238.0	2.7	△ 10.9
ブラジル	181.6	231.6	2.6	27.5
イタリア	147.8	135.2	1.5	△ 8.5
米国	221.1	130.4	1.5	△ 41.0
日本	124.0	105.9	1.2	△ 14.6
輸入総額	9,438.3	8,799.7	100.0	△ 6.8

[注] サービスを含む。表2とも、財については、輸出はFOB、輸入はCIF。サービスについては国際収支ベース。

[出所] 表2とも、ウズベキスタン国家統計委員会。

業や国土の中央部に位置するナボイの銅鉱山開発事業のような大型案件が2010年に一服したことが挙げられる。

2010年の固定資本投資は前年比13.6%増の97億ドルを計上したが、うち、外国からの投資の割合は28.8%で前年に比べ3.6ポイント減となった。他方、EBRDによると、対内直接投資額(ネット、フロー)は15.6%増の8億2,200万ドルだった。2010年5月に石油・天然ガス分野で8億ドルに上る投資を行っていたゼロマックスが撤退したが、2010年末から2011年第1四半期にかけて大型案件が相次いで発表されている。ロシア石油大手ルクオイルによる天然ガス開発事業(31億4,560万ドル)や韓国企業のコンソーシアムによるガス化学関連の開発事業(16億9,400ドル)、GMパワートレインによるエンジン製造工場への投資(5億2,200万ドル)などの案件があり、政府は資源開発と輸出産業の育成を通じてさらなる経済発展の起爆剤としていく計画だ。

■ビジネス環境改善に向けた取り組みが始動

日本側通関統計をドル換算すると、2010年の対ウズベキスタン輸出は前年比9.1%減の7,707万ドル、輸入は65.9%増の1億7,155万ドルで貿易収支は9,448万ドルの赤字であった。輸出を品目別にみると、貨物自動車が

表2 ウズベキスタンの主要品目別輸出入

(単位:%)

輸出				
品目	2009 年		2010 年	
	構成比	構成比	伸び率	
エネルギー製品	34.2	24.8	△ 19.8	
綿繊維	8.6	11.3	46.0	
食料品	6.0	9.7	77.3	
サービス	8.8	9.1	14.7	
鉄鋼・非鉄金属	5.0	6.8	52.7	
機械・設備	2.9	5.5	2.1 倍	
化学品・プラスチック製品	5.0	5.1	12.9	
その他	29.5	27.7	3.9	
輸出総額	100.0	100.0		
輸入				
品目	2009 年		2010 年	
	構成比	構成比	伸び率	
機械・設備	56.5	44.1	△ 27.3	
化学品・プラスチック製品	11.1	14.3	20.3	
食料品	9.0	10.9	13.2	
鉄鋼・非鉄金属	6.3	8.4	23.7	
エネルギー製品	3.5	6.0	61.0	
サービス	4.4	4.7	1.7	
その他	9.2	11.6	16.8	
輸入総額	100.0	100.0		

[注] 品目別の金額の詳細は未公表であるが、金額ベースの伸び率は公表されている。

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移
<実行ベース、ネット、フロー>

(単位:100 万ドル)

	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年
対内直接投資額	174	705	711	711	822

[出所] 欧州復興開発銀行(EBRD)「Transition Report Update 2010」。

70.8%増の2,269万ドル、シャシが5.3%増の1,828万ドルと伸びをみせた。これらは日本企業が出資しているバス生産事業に関連するものである。一方、メカニカルシヨベルや地ならし機は前年には合計で1,000万ドルを超えていたが30万ドルに満たない額まで大きく縮小した。前年はADB主導のプロジェクトに伴い、建設機械輸出が急増していた。

輸入では未加工用金が前年比66.1%増の1億7,000万ドルと輸入総額の99.1%を占めており、その増加額(6,767万ドル)は総額ベースの増加額(6,816万ドル)とほぼ同額となった。その他の品目では綿関連(綿織物、綿単糸、綿)と絹関連(絹紡糸、絹のくず)などがあった。

2011年2月のカリモフ大統領来日の際に、海江田経済産業相とサイドワ対外経済関係投資貿易相との間で覚書が締結され、両国間での貿易・投資の拡大に向けビジネス環境のさらなる向上を図るためのワーキンググループが設けられた。ウズベキスタン側は関係省庁の次官がメンバーとなっている。これまで時間がかかっていた輸入代金決済のための外貨調達をはじめとする問題が実務面で進捗をみるようになれば、老朽設備の更新を促す新税制の施行も追い風となって、日本企業にとってウズベキスタンは魅力のある新たな戦略市場になると期待される。